

# 姉妹都市提携30周年 親善団報告書

Monterey-Nanao Sister City 30th Anniversary Tour Participants



2025/9/24~9/29

七尾市・モントレイ市姉妹都市提携30周年記念交流事業実行委員会

# Contents

---

●七尾市長	茶谷 義隆	.....	2
●団長	森山外志夫	.....	3
●副団長	北原 良彦	.....	5
●親善団名簿		.....	9
●日程		.....	10
●団員レポート		.....	11



七尾市長 茶谷 義隆

姉妹提携30周年を記念してカルフォルニア州モントレイ市で行われる記念式典に参加することを主な目的として訪問した。その他モントレイ市民との交流、モントレイ水族館への訪問、モントレイジャズフェスティバルの主催者との交流も行った。

### ●モントレイ市長への表敬訪問

モントレイ市民などからは七尾市や団体に義援金をいただいております、それらのお礼と合わせて能登半島地震の復旧、復興の映像を紹介し、現在の七尾市の状況を説明した。

### ●30周年記念式典

市長表敬後に会場を移動して30周年の式典が行われた。これまでの歴史をお互いに振り返り、さらなる友好を築き上げることを誓い合った。今後の交流については特に子供たちの交流再開を期待する声が多かった。コロナ感染症以来途絶えている中学生の交流について、現市長であるタイラー・ウィリアムソン市長はもちろんのこと、ゲストとして参加され95歳を迎えた元市長ダン・アルバート氏は力を込めて子供たちの相互交流再開を期待されていた。七尾市長として、その再開に向けて尽力していく次第である。

### ●モントレイ水族館

モントレイ水族館では副館長のナタリア・ハーリーと意見交換をすることができた。設立の経緯は異なるものの、のとしま水族館と同じ公立の水族館であり、その歴史や運営について説明を受けた。副館長が翌週に日本を訪れる予定であることもあり親しみを持って対応をいただいた。のとしま水族館は県が関係する施設ではあるが七尾市の大切な観光交流拠点であることの説明と復興には観光振興が欠かせないことを相互理解した。副館長は女性で大学の教授も兼ねているとのことであり非常に多忙な中、急遽対応いただいたことに感謝している。

### ●MJF会場

モントレイジャズフェスティバルの会場にも足を運んだ。滞在できる時間は限られたが、開催理事会の理事長であるケン・ゴードン氏とは2年ぶりの再会であり、理事長からは「七尾市の皆さんがこれだけモントレイを大事にしてくれていることに驚くと同時に復興に向けて開催理事会としても協力できることはしていきたい」と固い握手を交わしていただいた。今後のモントレイジャズフェスティバル in NOTOに全米選抜ハイスクールバンドや開催理事会の理事の招聘に向けての一助になったものと考えている。

### ●最後にモントレイ市民のフレンドシップには改めて感銘

交流会など各所で、モントレイの皆さんが我々を心から受け入れてくれた。交流会では、多くの市民と交流した他、モントレイ高校の学生で構成するバンドの演奏もあった。今回の交流事業は、モントレイ・七尾友好協会の会長であるデyna・ラッセル氏のお力添えが大きい。デyna会長と友好協会のスタッフの皆さんは、交流事業を迎えるため何回もミーティングを重ねて十分な準備をして我々を迎えていただいたようである。

ご尽力いただいた和田氏、アレックス氏、ローリー氏などモントレイの方や親善団にご参加いただいた七尾の皆さんに心から感謝を申し上げ報告といたします。



親善団団長 森山外志夫

結論からいうと、今回のモントレール訪問は大成功だった。

初期の目的は、一つに両市の30周年のお祝い、二つに七尾文化の発信、「NANAO DAY」の開催、および市民交流、三つに両市の交流歴史と今回の各界の交流から未来へ繋ぐに相応しい“絆”を深めることであった。

三つとも想像以上の成功が得られ、必ずや両市の市民交流が世界で稀な未来を築けることになるだろうし、まさに35周年、40周年に向けた大きな一歩を踏み出した。

世界は色々な意味で分断が進んでいるときだからこそ、互いの文化の違いを理解しあえる関係づくり、そして寛容や協調しあえる世界を築く必要があるだろう。だからこそこの姉妹提携を通じて交流する意義がある。モントレール市長のタイラー・ウィリアムソン氏も挨拶でそう述べていた。

今回もそうだが、モントレール友好協会ははじめ、モントレール側の大歓迎ぶりにはいつも驚かされる。帰路、バス出発が早朝5時にもかかわらず、Dana会長、アレックス・フラニッキ氏、前Casaホテル支配人ランデイ・デービット夫婦の見送りには毎回頭がさがる。それをランデイに話すと、「それは私が加賀屋ホテルに学んだことです。」と返ってきた。おもてなしの心がモントレールに生きていることを本当に嬉しく思った。

またタイラー・ウィリアムソン市長の言動に感激至極だった。①ウェルカムパーティーでの挨拶で、能登半島地震の影響を心配し、今後もその支援を行っていく、その意を表明してくれた。②4つの会合（ウェルカムパーティー・公式訪問、感謝状贈呈式・七尾day・フェアウェルパーティー）に全て出席しそれもほとんど最後までその場にいた。モントレールでの会合でもこんなことはないと言った。③交流を未来へ繋ぐ、その具体策として青少年の交流、特にジュニア・ウィングスの再開を検討すると宣言してくれた。それは両市の関係を今後も継続していく意向表明である。

④特筆すべきことは、タイラー・ウィリアムソン市長から小田禎彦氏（代理で娘さんの山崎妃登子さんが受取り）、茶谷義隆市長から元モントレール市長で元友好協会会長のダン・アルバート氏への感謝状の贈呈があったこと。

⑤交流を未来へ繋ぐ・・・これに関して今後は、その実践に両市・両友好協会の果たす役割は多いにある。

今回同行した山崎妃登子さんの息子さん（小田禎彦氏の孫）、輝彦君（高校一年生）・海登君（中学二年生）の二人は異口同音に小田さんのモントレールにおける貢献を知り、刺激を受けそして感激した様子、そのうえで、必ずこの地に戻って来て留学したい旨を話していた。「世界を観たい」そして「日本を観る」という彼らの言葉を聞いて私は七尾の未来は明るいと感じた。

最後に七尾市の御支援があったからこそ成功裡に終えたことに感謝したい。そして部長松崎健氏、課長小原真紀子氏、課長補佐岡島佳子氏や商工会議所の事務局が影の功労者であったこと、団員一同感謝に堪えない、このことも記しておきたい。そしてまた副団長の北原良彦氏はじめ各団員の御協力、ご支援に感謝したい。

以下、日記帳に記したことを書き報告書とする。

#### ● 9月24日（水）

七尾市役所での出発式で、市長の激励の挨拶を受け、他職員多数の見送りを受け、能登空港へ。そして羽田へ、サンフランシスコ空港到着まで延べ10時間以上のフライトで、その寝不足の身体が、モントレールからサンフランシスコまでバスに乗って2時間、アレックス・フラニッキ氏の出迎えにその疲れは吹っ飛んだ。

Casa Munras Garden HotelではDanaモントレール友好協会会長と会員の和田洋さんが出迎えてくれ、久しぶりの再会を喜んだ。

夕食会では建築家のAllen Robinson氏も加わりFW（フィッシャーマンズワーフ）のイタリアンレストランで楽しい時間を過ごした。たまたま、メンバーの大岡敦至さんの誕生日であり、バースデイクーキの

サービスで盛り上がった。料理は肉と魚を別々に注文したが、みなその大きさに驚かされた。特に揚げ鮭の大きいのにそれを注文した人は半分程度しか食べれていなかった。

ホテルからFWまで歩いて行っただが、10年ぶりの為その当時とどうしても比較してしまうが、アルバード通りの歩道は落ち葉などで綺麗でなく、FWの入口で今迄観たことのないホームレスがいた。またFWの中の人通りが少なく感じ、閉店中の店もあったことに驚いた。あとで質問したら、市と契約でもめていて店を閉めているとのことであった。

#### ● 9月25日（木）

Casaホテルを出発し、今まで観たことのない、モントレイの街並みが霧で覆われとても幻想的であった。今日はモントレイ半島、17マイルドライブ、ローンサイプレス、ペブルビーチ、芸術の街・カーメル、水族館、キャナリーロウ等郊外視察その後はウェルカムパーティの一日。

FW周辺に比較し、水族館やキャナリーロウ周辺が以前にも増して多くの人々がたむろし、1987年に初めて宿泊したホテル「モントレイプラザホテル」周辺まで開発が進んでいた。当時は閑静な場所であったし、起床時は波音で目が覚めた。海側は以前の本造建物そのままだったが、丘側は鉄骨造りが増加していた。

ウェルカムパーティで、タイラー・ウィリアムソン市長の話、「分断の進む世界だからこそ姉妹都市の意義がある。」全く同感だ。

#### ● 9月26日（金）

モントレイ発祥の場である税関、劇場・美術館などいわゆるオールドモントレイ周辺を視察し、歴史を学んだ。新しい施設のモントレイスポーツセンターや図書館は多数の人々が活用されており、その運営は寄付行為が多いのに改めて驚かされる。日本の税法は変えるべきだろう。そうでないと文化スポーツは育たない。消防署・警察署は市の管理下であり、我々の訪問にはしご車を最大限上昇させそこを若い消防士が最高部まで上がっていき、一同は拍手喝采だった。またメンバーは警察車に乗りご満悦の様子、なんとサービス精神のある人達だろうと感心する。

今回のメインイベントである公式訪問と感謝状の授与、タイラー市長から小田さんへのメッセージは日本のそれと大違い、今までの功績も入れた長文でそれも具体的で昔を知る者にとって感動だった。またアレックスの配慮でその様子をSNSで七尾の小田さんへ同時中継していた。代理で授与された山崎妃登子さんは感激しきりだった。

感激の一日は真っ青の晴天で、市役所前のポールには日章旗が翻っているのを観て彼らのホスピタリティ感謝。

それにしてもこの三日間一日1万歩以上歩いた。腰痛のためストレッチに励む毎朝だ。

#### ● 9月27日（土）

朝から「NANAO DAY」・フェアウェルパーティ・JAZZと多忙だったが心地よい疲れに浸った一日だった。

「NANAO DAY」の会場、アメリカ・日本ホールに顔を出してくれた茶谷市長、松崎部長が一日早く帰るのを見送り、この会場にどれだけの人々が来場するかを心配しながら準備に入った。結果は大成功、出入りで100名以上の人々が楽しんだ様子だった。七尾文化の発信は十二分に出来た。野竹夏子さん指導、Dana会長夫人秀子さんの協力で行った茶席の正客で出席してくれたタイラー市長やラリー、小田さん（日本・アメリカ市民連盟代表）らが華を添えてくれ、今回のこのイベントに敬意を表してくれた。木下美也子さんの水引や典子の風呂敷包みに多いに興味を示し、日本に来たことのある人が、風呂敷帽子をかぶり「みなとヨイサ」を踊っている姿を見て微笑ましかった。野竹さんと私の篠笛の音にも興味を示してくれた様子であったが、和田さん夫人恵美さんのピアノ演奏と典子の歌で助けられた。

フェアウェルパーティでタイラー市長と同席だったので、ぜひ七尾の青柏祭の時期に来て欲しい旨を伝えたが、政治的発言ではない答えとして「行ってみたい」を得た。

本場のJAZZはやはりサウンドが違う。いつ来てもこの広い空間で食・土産・音楽が楽しめるのは「世界で一番長く続いているJAZZフェス」と感心しきり。

この4日間の運営やサービス含めすべてに協力、支援してくれたモントレイ市、友好協会Dana会長や和田さん、アレックスはじめ友好協会の皆さんに本当にあたまが下がる思いでいっぱいだった。感謝に堪えない。この気持ちをDana会長に伝えよう。

#### ● 9月28日（日）

早朝5時10分出発予定が我々夫婦の寝坊で20分遅れで出発、皆に迷惑をかけた。許して頂戴！



## 七尾・モントレーの交流の経緯・成果・これから

親善団副団長 北原 良彦

ここでは、約40年前、七尾市の研修視察団がどのような考えでモントレーを訪問したか、それによってどんな成果が得られたか、そしてこれからの交流について考える。

### 1. モントレー訪問の経緯

七尾市は、1970年代から80年代にかけて、港湾産業や観光産業の不振、商圏の衰え、人口流出などによって経済力が落ち、市民の気力や誇りまでもが衰えていた。そこで、都市存亡の危機感を抱いた、若手経済人や若手市民が立ち上がり、市民大学講座やフォーラムなどを開催し、ビジョンを作成した。それは「七尾マリンシティ構想」と名付け、万葉の時代から港を中心に栄えていた七尾港という財産を見直し、新しい価値を加えて、都市を再生しようというものである。

しかし、ビジョンがあってもビジョンを実現化する方法がわからない。どこかにお手本となるような都市はないか、とビジョン推進のリーダーであった小田禎彦氏は悩んだ。そこで小田氏は、大学時代の恩師を通じて、親交があったティム芦田氏に相談し、モントレーを中心とするアメリカ視察研修を行うことになった。この視察研修の目的は二つである。一つは、モントレーを中心とするまちづくりをお手本として学ぶことにより、七尾のまちづくりに活かすこと、もう一つは、視察研修に参加した人が、七尾のまちづくりのリーダーや支援者になることである。その際、研修場所の選択、訪問先のコーディネート、わかりやすい解説を含めた通訳などにお骨折りをいただいたティム芦田氏の功績は非常に大きい。また当初、モントレー側の受け入れ窓口になっていただいた、モントレー半島商工会議所の専務理事、ジョアン・ピース女史もモントレーと七尾の交流に欠かせない存在であった。お二人には、心から多大なる謝意を伝えたい。



【ティム芦田氏】（FBより）

### 2. モントレーで学んだことと七尾での成果

モントレー市は、半島の中心都市であり、人口規模も七尾市と同等で、訪問により多くのことを学んだ。特にモントレーのフィッシャーマンズワープを見学・体験し、私たちが計画していたフィッシャーマンズワープができるのではないかと考え、実現にいたった。また、キャナリーロー地区の再開発事業を見て、鰯が全く獲れなくなった危機を乗り越えて事業に取り組み、成功させたことも学んだ。さらに中心市街地の商業再生や景観保全など、参考にしたことは枚挙に暇がない。

しかし、このようなハード事業だけでなく、モントレーで感じたことは、まちを愛し、大切にすることが新たなことにチャレンジし続ける精神である。また押しかけ女房的に七尾から訪問している私たちに対して、暖かいホスピタリティで接していただき、いろいろなことをオープンに教えてもらっている。このようなまちづくりへの想いや交流している方々の気持ちを大切にしていきたい。

七尾市のインフラ整備は、能登食祭市場の開業（1991年）、二つの再開発事業（1995年、2006年）、七尾マリンパーク（2001年）、シンボルロード（御祓川大通り）の開通（2010年）など、22年間で、合計308億円の投資がなされた。七尾マリンシティ構想の実現は、市の活性化とともに訪問者・観光客にも好評であり、市内への顧客の流れも生じている。

これらのインフラ整備だけでなく、「やればできる」という市民マインドが醸成されたことが大きい。それによって現在、若者が主催するまちづくりや市民生活向上のための市民団体が数多く誕生し、活発に活動している。

### 3. これからの交流

七尾のまちづくりを進めるにあたっての最重要課題である「人づくり」のために、小田禎彦氏が団長として1986年にモントレー等を訪問して40年がたった。最初の民間団体の訪問から10年目に姉妹都市調印が行われ、以来30年が経過した。

このような市民レベルでの交流が長く続く例は、まれである。今回、モントレーで「NANAO DAY」を開催することができたが、このような文化的な交流を続けるとともに、次の世代の交流ができるようにすることが重要である。ジュニアウィングスの再開が約束されたが、中学生、高校生、20代、30代の交流ができるようになるプログラムを考えて行きたい。またモントレージャズフェスティバルin 能登をはじめ、音楽、スポーツ、芸術、日本文化の紹介など、様々な世代が楽しみながら交流できるプログラムによって交流を深めたい。

また、今回の能登半島地震に際しては、モントレーから物心ともに多大なる支援をいただいた。復興のプロセスをモントレーの方々にも見ていただき、七尾の底力や気概を感じていただきたい。そして七尾が復興することが、支援に応えることであり、長年のモントレーとの交流への御礼でもあると考える。世界で分断の危機が高まっている現在、市民レベルの交流によって人々の相互理解が深まることが、世界の平和や安寧の一助になると確信している。



# モントレーとの交流による学びとこれからの能登・七尾の活性化策

七尾・モントレー友好協会名誉会長 小田 禎彦

本稿は、2025年10月16日に加賀屋応接室において、小田禎彦氏にインタビューを行った内容のまとめである。交流10周年までの経緯については「夢を現実に変えた男たち」（1996年・七尾マリンシティ推進協議会発行・北國書籍）に詳しい。（文責・北原良彦）

## 1. モントレー市との交流のきっかけ

モントレーとの交流は、「七尾マリンシティ構想」をいかに実現するかについて悩んだ結果、多くの七尾市民にお手本となる都市を見てもらうことがビジョンを理解し、実現化の行動力となる近道であるという考えのもと、企画した。視察の効果をあげるためには、少なくとも10回は続ける必要があると考えた。そのお手本となる都市を紹介していただいたのが、ティム芦田氏であった。ティム氏との出会いは、大学の恩師の紹介で大学の友人とともに食事をし、生きたアメリカの話を聞いたことがきっかけであった。ティム氏からは、アメリカで起こった問題の解決方法など、日本では耳に入らない先端的な情報を得ることができた。そこで、第1回の訪問団のプロデュースや通訳を依頼した。訪問した各都市の中で、七尾市と都市規模が近いモントレー市を訪問したことが、40年にわたる交流のきっかけである。いろいろなエピソードや思い出があるが、第1回訪問の際、あまりにもモントレーの気候が良く、熟睡した団員2名が遅刻し、皆で大笑いしたことも楽しい思い出の一つである。

## 2. モントレー市から多くのことを学び、姉妹都市へ

当時のダン・アルバート市長や商工会議所のジョアン・ピース氏から、ペブルビーチゴルフ場をビング・クロスビーの名を冠して売り出したことや、モントレージャズフェスティバル、クラシック音楽祭（モーツァルト、バッハ等）、自動車の展示即売会、ワイン祭りなどを活用してまちを活性化させた事例を学んだ。イベント都市モントレーである。

モントレーとの交流の中から姉妹提携の構想が生まれた。現地の人々が非常に親切で、学ぶべき点が多いことから、七尾市とモントレー市との間で姉妹提携を結べないかという機運が持ち上がった。このきっかけについては、「夢を現実に変えた男たち」を参照されたい。

## 3. 能登・七尾の活性化策

未曾有の震災や豪雨災害を経験して、これからの能登・七尾の活性化策を提案したい。

### 1) イベントを主軸とした地域活性化策

米国モントレーのジャズフェスティバルやゴルフイベントを参考に、能登でも「モーツァルト祭り」や「イカ祭り」などを恒例化し、集客の核とすることを提案する。金沢では歌謡曲、能登ではジャズといった都市によって異なる特色ある音楽祭の開催も良いと考える。

### 2) 各地域の祭りの活性化と連携

能登島の火祭り、牡蠣祭り、石崎の奉燈祭り、魚供養など、既存の多様な祭りを活用し、毎月のように観光客を呼べる仕組みがおもしろい。現在、担い手不足で将来的に開催が危惧される祭りに対し、資金援助や奉燈の巡行ルートを短縮するなど具体的な工夫も必要である。

### 3) 七尾港や城山のライトアップによる景観整備

金沢港のように七尾港をライトアップすることや、スポンサーを得て七尾城跡をライトアップすることが考えられる。これにより七尾を名実ともに明るくし、元気な街にしていくことを目指すものである。

### 4) 養殖漁業の推進

アワビやトラフグの陸上養殖の推進も一案である。特に、市長が近畿大学の卒業生であることから、マグロ養殖で実績のある同大学のノウハウを七尾の漁業に活かせないかと期待している。

### 5) 文化・芸術資産の活用

美術工芸（珠洲焼、輪島塗、九谷焼等）、長谷川等伯、作家の安部龍太郎氏、といった文化的な資産を、観光振興やイベントと連携させて活用することが七尾の文化度を向上させる。

#### 6) 移住・観光促進策

道の駅とホテルチェーンの連携によるホテルの事例があるが、その他、別荘の建設、ライトアップやイベントによる魅力向上を通じて、観光客を呼び込み、七尾に住みたい人を増やす政策が重要である。

#### 7) 女性の活躍推進による地域活性化

地域活性化には女性の活躍が不可欠である。過去に「能登の活性化の乙女の会」で台湾へ行ったことがあるが、より一層の女性の活躍を期待している。

#### 8) 和倉駅と鉄道アクセス

和倉から金沢へのアクセス改善のため、和倉駅裏に大規模な駐車場を建設し、奥能登の方が七尾線を利用して金沢まで行くことも考えられる。これにより移動の疲労が半減するとともに鉄道の利用が促進される。また、七尾線にSLや特急電車を走らせ、大阪からの直通便も活用して能登の鉄道の魅力を高めるべきである。

#### 9) 観光資源の開発と活用

再掲になるが、長谷川等伯、城山のライトアップ、寿司王国構想、国定公園から国立公園への昇格、輪島朝市の「魚天国」など、既存の観光資源の活用が重要である。また、職人不足に対応するため、2ヶ月で寿司職人を育成する「寿司アカデミー」の設立なども考えられる。

#### 10) スポーツ合宿の誘致

サッカーやテニスの合宿場を整備することは和倉温泉にとって重要である。雨天でも練習可能なアリーナを公設民営で建設することもメリットが大きい。合宿誘致の大きなポイントになる。

このようないろいろな施策を組み合わせ、七尾、能登の活性化につなげることが重要である。特に柔軟な考え方を持つ若者たちの力に期待したい。



**七尾市・モントレイ市姉妹都市提携30周年記念交流事業  
親善団名簿**

	氏 名	所 属
1	茶谷 義隆	七尾市長
2	森山 外志夫	親善団団長 七尾・モントレイ友好協会長
3	北原 良彦	親善団副団長 七尾商工会議所副会頭
4	木下 美也子	七尾市議会議員（総務企画常任委員長）
5	石田 朗	七尾ロータリークラブ
6	濱野 佳憲	七尾ロータリークラブ
7	平山 孝一	石川県建築士会七尾鹿島支部
8	宮西 直樹	和倉温泉旅館協同組合
9	魚岸 志乃富	七尾・モントレイ友好協会
10	森山 典子	七尾・モントレイ友好協会
11	野竹 夏子	七尾・モントレイ友好協会
12	山崎 妃登子	七尾・モントレイ友好協会
13	山崎 輝彦	七尾・モントレイ友好協会
14	山崎 海登	七尾・モントレイ友好協会
15	大岡 敦至	七尾商工会議所経営支援課長
16	松崎 健	七尾市企画振興部長
17	小原 真紀子	七尾市企画振興部地域づくり支援課長
18	岡島 佳子	七尾市企画振興部地域づくり支援課課長補佐

## 日 程

《第1日目》9／24（水）

時 間	行 程
8:20	出発式
8:30	七尾市役所から貸切バスにて、能登空港へ
10:35	能登空港 発（ANA748 便）にて、羽田空港へ
15:50	羽田空港 発（UA876 便）にて、空路 サンフランシスコ国際空港へ
9:30	サンフランシスコ国際空港 着
11:00	サンフランシスコ国際空港から貸切バスにて、モントレーのホテルへ
13:30	ホテル チェックイン 宿泊先：Casa Munras Hotel & Spa
17:30	ホテルから徒歩で夕食会場へ
18:00	夕食（モントレーFMW内のレストランにて） 於：CRAB HOUSE SEAFOOD



《第2日目》9／25（木）視察研修①

時 間	行 程
9:00	視察研修①（モントレイ市郊外） ※ホテル⇒キャナリーロウまで貸切バス モントレイ市郊外の観光地、施設を視察 ・17マイルドライブ、ローン・サイプレス、ビッグサー、カーメル、キャナリーロウ、水族館
17:00	モントレイ市関係者との Welcome Party 於：Casa Munras Hotel & Spa Garden
19:00	夕食（全団員が揃っての夕食） 於：Alvarade Street Brewery

和倉温泉旅館協同組合 宮西 直樹

1770年にスペイン人が入植したことで始まるモントレイ。その歴史はアメリカ独立宣言の1776年よりも古く、今もなお、歴史と文化が残る魅力的なエリアである。2日目は「観光」がメインの視察であり、主要な観光地を一行、「バス」で立ち寄りながら、観光客を引き寄せる魅力や仕組みなどを、各自、体感することがミッションである。

ホテルを8時45分出発、まずは、モントレイ半島の海沿いにある壮大な海岸「17マイルドライブ（ローンサイプレス・ビッグサー含む）」を巡る。高級リゾート地として富裕層による豪邸が立ち並び、自宅や別荘、あるいは投資用物件として活用されている。美しい海の風景と豪華な建物外観が見事に調和し、通過するだけで爽快な気分を得られる絶景ドライブコース。行政による景観&建築レギュレーションと民間による投資とアイデアによって成功した開発モデル地区と感じる。

続いて芸術家が集まる場所として有名な「カーメル（\*かつては映画俳優クリントイーストウッドが市長を務めた街）」に立ち寄る。スペインやイングランド様式の古風な建物が並び、至るところに来客のおもてなしのごとく、季節の花々がたくさん咲いている。

地元野菜や食料を販売するファーマーズマーケットや個性豊かなアートギャラリー（画廊）、カフェ、ブティックが立ち並んでおり、まさに色彩豊かな「芸術の街」である。観光の視点でいえば、心地良く、楽しく、美しい、非日常の空間は「モノコト消費」促す効果があり、我々、一行においても満足した「消費」を楽しんだ模様で、バス出発時には各自、個人嗜好品や土産品が入った、ショッピングバッグを抱えていた。

お昼は、1945年の米国小説で有名になった「キャナリーロウ」、そして隣接する「モントレイベイ水族館」に昼食を兼ねて立ち寄る。このエリアかつてイワシの加工工場が立ち並んでいたが、漁獲高の激減によって工場は閉鎖を余儀なくされ、エリア産業は低迷の状況に陥ることになったのだが、行政や民間がこの歴史的建造物群（工場群）を観光に活用（レストラン等の再開発）したことで、今日、ウォーターフロント観光エリアとして多くの観光客が訪れている。

街全体として当然魅力的なエリアであったが、ピンポイントで印象に残ったのは「モントレイベイ水族館」であった。理由はシンプルに「のとじま水族館」との比較である。水族館から臨む（隣接する）美しいモントレイ湾には、野生アザラシやラッコが普通にウォッチでき、大自然の観光資源がごく身近に且つ施設内で観られるので、こちらは「モントレイベイ水族館」に軍配があがる。一方、館内におけるメイン展示（目玉）はモントレイは高さ9mのジャイアントケルプ（海藻）に対して、のとじま水族館はジンベイザメであり、こちらは「のとじま水族館」に軍配があがると思われる。個人的な裏付け証左ではあるが、後日のフェアウェルパーティ（送別会）において、震災模様と七尾の観光資源をスクリーン投影した際、のとじま水族館のジンベイザメ登場時に驚きの声が上がったことであり、我々地元にとっては見慣れた光景が、地元以外の方々にとっては「アメイジング」になると、あらためて観光の面白さを感じたところである。（例えば欧州観光客にとって日本の田んぼがアメイジングになる）

最後に、モントレイの人口は約30,000人、七尾の人口は約45,000人であるが、本日訪れた各観光エリアや夜の飲食店街等は、大勢の人で賑わっており、この賑わいをつくる主役は観光宿泊客であると容易に想像できる。モントレイが観光による外貨獲得を産業の柱に据えて、地域エコノミーを潤し、そしていかに経済循環させているか、興味は尽きないところである。

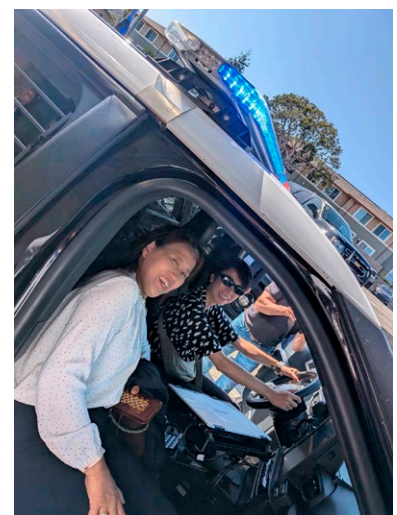
《第3日目》9／26（金）視察研修②

時 間	行 程
9:00	<p>視察研修②（モントレイ市内） ※徒歩移動</p> <p>モントレイ市公共施設の視察研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツセンター、フィッシャーマンズワーフ周辺の歴史的建造物を見学（税関、博物館ほか）</li> <li>・カスタムスハウス、パシフィックハウス、姉妹都市公園</li> </ul> <p>※ 茶谷市長、松崎部長は別日程"</p> <p>昼食（市内移動中に各自食事）</p>

七尾ロータリークラブ 石田 朗  
濱野 佳憲

モントレイ市内視察研修はスポーツセンターの視察からスタートしました。この施設は多くの寄付から成り立って運営されています。和倉温泉加賀屋の小田禎彦氏も1万ドル以上の寄付貢献者としてパネル掲示されていました。30メートルのプール、バスケットボールコートをもつ3面取れる体育館、ジムなど全ての空間に空調が行き渡っていて羨ましい限りです。料金も安価で毎日子供から老人まで約3,000人が利用しているそうです。次はフィッシャーマンズワーフ周辺に移動しモントレイの歴史について学びます。歴史的な建物が多く保存されているモントレイ。まずはカリフォルニアで一番古い歴史的建造物とされる税関の建物に入ります。モントレイ周辺はスペイン統治時代から続く長い歴史を持ち、1846年に米国に併合されるまでメキシコ領カリフォルニアの州都であり輸出入の中心地であったそうです。次にカリフォルニアで一番古い劇場へ。バーカウンターやステージが残されており当時の衣装も展示されています。どのような演劇を行っていたのか想像が膨らみます。次の博物館では先住民の暮らしが分かる展示がされていました。ここで一人の女性が我々に声を掛けてくれました。聞くと10年前にジュニアウィングスで七尾に来ていたアレクサさん。当時の事を懐かしそうに話してくれました。急遽、博物館の案内を買って出られ館内の説明をして頂きました。昼食後は消防署へ移動。大きな"はしご車"を車庫から出してデモンストレーションを行ってくれました。命綱無しで隊員が天辺まで登ります。下から見ていても冷や冷やします。ちなみにモントレイのビルで一番高いところは110フィートとの事。次は隣にある警察署へ移動。地下にある留置場やガンシューティングの練習場を見学。ポリスカーの車両にも乗せて頂きました。後部座席に座るとプラスチック製でクッションは全くありません。車両の色は艶消しの黒で素敵です。モントレイでは警察も消防も通報は911で同じ番号です。どの様に裁いているのかと聞くと、サリナスにセンターがあり、そこから警察か消防かに振り分けるそうです。次は図書館に移動。ここもカリフォルニアで一番開設の古い図書館です。展示物の中に、その昔海を渡ってきた日本人の方の写真が多数保管されており、日本とモントレイの関係の深さを感じました。旧モントレイ刑務所を見学の後、モントレイ市役所隣のコルトンホールへ移動。1849年この建物でカリフォルニア州法が作られたそうです。州法を作った48名のサインが残されていました。また当時のカリフォルニア州は現在のネバダ、ユタ、アリゾナなども含まれ、面積がかなり大きかったと説明がありました。

本日の視察を通してモントレイ市がカリフォルニアで大変重要な場所であったと学んだと共に、説明頂きましたモントレイ市の皆様がとてもフレンドリーでユーモアがあり、日本とはまた違うホスピタリティを感じました。ありがとうございました。



《第3日目》9/26（金）モントレイ市長表敬訪問・姉妹都市30周年記念交流式典

時 間	行 程
13:00	消防署、警察署、旧モントレイ刑務所、市立図書館、コルトンホール
15:30	モントレイ市長表敬訪問・・・茶谷市長、木下議員、森山団長、北原商工会議所副会頭
16:10	姉妹都市30周年交流記念行事 市長スピーチ 記念プレートの授与 感謝状交付（モントレイ市長⇒Mr. 小田・七尾市長⇒Mr. ダン） 感謝状受賞者スピーチ
17:00	※ 茶谷市長、松崎部長はMJF会場へ
18:00	夕食（ホテルから近い中華レストラン） 於：Hull Moon

七尾市議会議員（総務企画常任委員長） 木下美也子

【モントレイ市長表敬訪問】

茶谷市長、木下議員、森山団長、北原商工会議所副会頭の4名で訪問。

茶谷七尾市長は

「30周年という長いモントレイと七尾の繋がりを今後とも続けて行くなかで、若い世代への継承をしなければならぬ。ジュニアウイングス交流を復活し若者の交流を深めていきたい。モントレイジャズフェスティバルの交流も早く復活して音楽交流も今後も続けて行きたいです。」

タイラーモントレイ市長は

「ジュニアウイングスやクロスカントリーなどスポーツを通じて学生交流を通して交流を続けていきたい。モントレイジャズフェスティバルイン能登も35回も続いているのは素晴らしい事で今後も音楽による交流を続けて行きましょう。この交流を最初に初めていただいた小田さんとダン・アルバート元市長に感謝し、お二人の意思を継いで絶やす事なく若い世代に繋いでいきたい。」

ダン・アルバート元市長

『この交流を絶やすことなく若い世代に繋いで欲しい』と私たちに伝えられました。

【姉妹都市30周年記念交流式典】

参加者全員で議場にて記念式典に参加。

姉妹都市公園に30周年記念プレートと植樹をします。そのプレートと同じものを七尾市に贈られました。

これまでの交流に対しての感謝状等の贈呈を、タイラーモントレイ市長より七尾・モントレイ友好協会小田名誉会長へ、茶谷七尾市長よりダン・アルバート元市長へ行った。



《第4日目》9／27（土）NANAO DAY

時 間	行 程
10:00 ～ 14:00	『NANAO DAY』 ・お茶会（茶道の紹介、抹茶セレモニー）、篠笛&歌い、水引細工・風呂敷の包み方の展示 ・紹介、七尾市紹介動画、交流足跡動画の放映、太鼓演奏、七尾の総踊り「みなとヨイサ」 交流（法被、うちわをもって）  於：Japanese American Citizens League Center
16:00	モントレイ市関係者とのFarewell Party 於：Casa Munras Hotel & Spa Restaurant

野竹 夏子

30周年を記念しての訪問に際して「NANAO DAY」を設けたので、その中の一つとして茶道の紹介とおもてなしをお願いしたいとの依頼を頂きました。

委員長、副委員長の30周年に向けての熱い思いを感じたことも勿論ですが私も19年前モントレイ市へ訪問し、主人もジャズで、二人の子供達もロータリー、ジュニアウイングスとそれぞれお世話になっていることもあり、私の出来る事で喜んで頂き、絆を少しでも強くするお手伝いになればとの思いで承諾いたしました。

アメリカで茶道が通じるのか、出来るのかとかなりの迷いもありましたが、モントレイ在住の日本人で茶道を習っている方もたくさんいることを知り、茶道の知識もあり、通訳も出来る方を市の担当者から紹介を頂き、事前に50～60回のメールのやり取りをいたしました。

茶道は、ただお茶を飲むだけのようですが「和敬清寂」の精神を大切にしています。（和やかな心で互いを敬い心静かにおもてなしをする）

お道具も季節を感じて頂ける設えにこだわり、日本の物づくりの確かさも届けたいと道具をえらび運ぶのに皆さまに分担してスーツケースに入れてもらう等、協力を頂いたおかげで役目を務められたと思います。

「NANAO DAY」も七尾らしい風呂敷、水引、篠笛、そして盆踊りなど楽しく和やかな交流であったと感じました。

各レセプション、食事会、訪問等で公共関係でも日本と違った仕組み等もあり、私は19年ぶりのモントレイを十分楽しんできました。

今後もこの有意義な交流が次世代に続いてくことを祈念しております。皆様本当に有難うございました。

森山 典子

私にとってモントレイ訪問は3回目ですが10年ぶりです。

米国モントレイ市の姉妹都市提携30周年記念行事に親善団の一員として市役所前での出発式からスタートしました。能登空港まではバスで、羽田空港からサンフランシスコまでのフライトでした。

サンフランシスコ空港まではアレックスさんがバスに乗って迎えに来てくれました。今回の訪問では、これまでの交流のおかげで、多くの懐かしい方々に会うことができました。歴史的な施設や消防署、警察、図書館などそれぞれの場所で和田さんやデイナさんに通訳していただきました。

最終日に行われた文化交流を目的とした「NANAO DAY」では、七尾の現状を映像で紹介し、篠笛の演奏では「荒城の月」とオリジナル曲「御祓川」を和田さんお奥さんのピアノを交えて披露させていただきました。野竹さんが事前の綿密な準備をして頂いた、七尾とモントレイの皆さんによる茶道のセレモニーでは地元の皆さんが異国の地でお茶の文化に親しんでいらっしやることに感動いたしました。木下さんによる水引の披露もとても興味を持ってくれたようでした。

特に今回、私が20年前から取り組んでいる日本のふろしき文化を紹介出来ました。『能登はやさしや土までも』と記した七尾湾をイメージしたオリジナルのふろしきと、所属する七尾市快適環境づくり市民委員会から提供していただいたふろしきをプレゼントさせていただきました。

持参の法被とうちわでモントレイの皆さんと踊った『みなとヨイサ』は楽しかったです。最終日のパーティーの後に行った本場のモントレイジャズフィスティブアルは圧巻でした。

これからも両市の友情が続くことを願って報告いたします。

《第4日目》9／27（土）モントレージャズフェスティバル視察

時 間	行 程
18:30	Monterey Jazz Festival 視察

七尾商工会議所経営支援課長 大岡 敦至

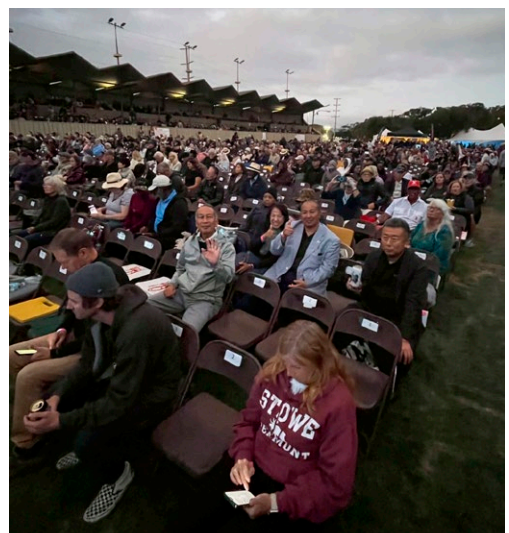
モントレージャズフェスティバルは、世界三大ジャズフェスティバルの一つであり、第1回目は、1958年に開催され世界で最も長く継続開催されているフェスティバルである。開催当所からモントレーフェアグラウンドで開催され、今年で68回目を迎えた。

七尾で行われているモントレージャズフェスティバルイン能登とは姉妹フェスティバルであり、これまで全米選抜のバンド、モントレーカウンティのバンドが七尾を訪れホームステイを通じ音楽による交流をしている。七尾からは石川ジュニアジャズアカデミーがモントレーで開催されているネクストジェネレーションジャズフェスティバルにも参加し交流を深めている。

今回一行は、モントレージャズフェスティバルを視察し、本場のジャズを堪能した。ジャズ会場では、モントレージャズフェスティバル開催理事会の件・ゴードン理事長の出迎えを受け、ジム・ライアンステージのCORY WONGの迫力ある本場のステージを堪能した。

今回は時間が無く、この1ステージだけで終わったが、会場等を散策し、本場の雰囲気を感じた。

前日には、茶谷市長もジャズフェスティバル会場を訪れ、ケン・ゴードン理事長と再会し、お土産を手渡しジャズを堪能した。



《第5日目》9／28（日）・9／29（月）帰国

時 間	行 程
5:30 10:40	ホテル発、貸切バスにて、サンフランシスコ国際空港へ サンフランシスコ国際空港 発（UA875便）にて、帰路 羽田空港へ
16:50 18:30 20:30	羽田空港 発（ANA755便）にて、小松空港へ 小松空港から貸切バスにて、七尾市役所へ 七尾市役所 着・解団式



## ～モントレイ市親善訪問を終えて～

石川県建築士会七尾鹿島支部 平山 孝一

このたび、七尾市と米国モントレイ市の姉妹提携30周年記念交流事業における親善訪問団の一員として、石川県建築士会七尾鹿島支部より参加させていただきました。私にとってモントレイ市の訪問は今回で三度目となりますが、親善訪問団としての参加は初めてであり、これまでとは異なる責任と期待を胸に渡航いたしました。

サンフランシスコ空港に到着後、バスでモントレイ市へと向かいました。到着時は珍しく曇り空でしたが、ホテルにチェックイン後、市内を散策しながら現地の空気を肌で感じることができました。夕食はフィッシャーマンズ・ワーフにて行われ、12年ぶりにAIA（米国建築家協会）モントレイ・ベイ支部の方々と再会。建築士会姉妹提携20周年の際の思い出を語り合い、時を超えて再びつながることができました。

二日目は視察を中心に、17マイル・ドライブやローン・サイプレス、カーメル市内、水族館、キャナリー・ロウなどを巡り、モントレイ半島の豊かな自然と文化を堪能しました。特に、かつて漁業と缶詰産業で栄えたキャナリー・ロウの街並みには、歴史の重みと再生の力を感じました。ジョン・スタインベックの小説にも描かれたこの地は、今では観光と教育の拠点として生まれ変わり、地域の誇りと知恵が息づいているのを感じました。

三日目は、モントレイの歴史や公共施設、姉妹都市公園などを訪問。地域の方々の丁寧な説明と温かい歓迎に触れ、両市の交流の歩みを実感しました。特に姉妹都市公園では、七尾市との絆を象徴する記念碑や展示が印象的で、30年にわたる交流の重みを感じました。その後、市役所を訪問し、モントレイ市長への表敬訪問を実施。市長からはこれまでの交流への感謝と、今後のさらなる発展への期待が語られ、非常に意義深い時間となったと思います。

モントレイ市は、18世紀末にスペイン人によって築かれたカリフォルニア最古の都市の一つであり、州都としての歴史も持つ文化的な中心地です。その歴史的背景は、街の至る所に残る歴史ある建築物やミッション教会、博物館などからも感じ取ることができ、訪れるたびに新たな学びがありました。

四日目は「NANAO DAY」として文化交流を実施。お茶会、篠笛の演奏、風呂敷の包み方、水引の紹介など、日本文化を紹介するプログラムを通じて、現地の方々との交流が深まりました。最後には、参加者全員で『みなとヨイサ』を踊り、笑顔と歓声に包まれた楽しいひとときを過ごしました。フェアウェルパーティでは再びAIAのメンバーと再会し、「次は七尾で会いましょう」と再訪を約束。夕方からは本場のジャズフェスティバルを鑑賞し、アメリカ文化の奥深さと多様性を改めて感じる機会となりました。

今回の訪問を通じて、姉妹都市としての絆の深さ、そして人と人とのつながりの尊さを改めて実感しました。文化や言語の違いを越えて、互いを理解し、尊重し合うことの大切さを学ぶ貴重な機会となりました。今後、40周年に向けては、さらに多くの市民が参加し、世代を超えた交流が広がることを期待しています。私自身も、建築士会の一員として、今後もこの貴重な交流を継続し、次の節目に向けて尽力してまいりたいと思います。



# モントレイ研修報告

山崎妃登子

モントレイ市と七尾市が姉妹提携を結んだ式典に私も参加させて頂きました。あれから30年。あっという間に月日が流れた気がしています。この両市の様々な分野での交流が今でも続いていることに感慨深い思いでいっぱいです。今回の訪問では懐かしい方々に再会することができ、本当に嬉しく、改めて両市の長年にわたる友情に感動を致しました。今回は七尾デイを通して、現地の方々との交流もできましたが、モントレイにおいても七尾ひいては日本の文化が非常に愛されていることを実感できました。この貴重な関係がこれからも末永く続きますよう、私も微力ながら尽力していきたいと切に思いました。最後に、今回本来でしたら参加するはずでした父、小田禎彦が不参加であったことを皆様にお詫び申し上げたいと思います。父も今回のモントレイ行きを大変楽しみにしておりましたが、健康上の都合で参加が叶いませんでした。ウェブにて式典の様子を父にも見せることができましたが、本来でしたら現地にて皆様とお祝いをしたかったと思います。父のモントレイへの感謝の気持ち、モントレイを愛する気持ちはとても強いものです。それらを私が少しでも引き継いで、将来に繋いでいけたらと思っています。

山崎 輝彦

自分は今回、初めてモントレイに訪れました。以前に家族からモントレイの話を聞き実際に訪れてみたと思っていたのでそれが実現しとても嬉しく思います。

まず驚いたのは日本とは違う町並みです。モントレイの町並みは、色とりどりでとても美しく町中を歩いているだけでも凄く楽しい気分になりました。それだけでもまたモントレイに訪れたいと思う程でした。また今回開催された「NANAO DAY」で現地の方と交流する機会が多くありました。現地の方の話を聞き日本の文化が多くの方に愛されていることを再認識しました。自分は英語を喋れず今回は通訳の方を挟んで会話をしました。ですが自分もいつか英語をしゃべれるようになって現地の方と直接会話をしてみたいと思いました。そしてこのような素晴らしい経験をし、自分のような若い世代がモントレイ市と七尾市の絆を繋いでいきたいなと思いました。

山崎 海登

モントレイの景色に圧倒されました。広大な海があり、自然が残り、それに沿って広がる家々は絵のような美しさでした。無駄なものが一切ないこの優雅な町に私は一度生活してみたいとも思いました。ですが、何より私が印象に残ったのはこの土地の人々の優しさです。言葉も通じないのに、なぜか一緒にいると安心感がある。不思議な体験でしたが、それはモントレイと七尾が長年培ってきた友情があるからこそその信頼関係のおかげなのだと思います。今回現地の高校生とも話をする機会が多くありました。中には各国からの留学生も多く、それぞれの文化的背景を持ちながらアメリカに生活をし、それでも尚日本に興味を持ち、いろいろな質問をしてくれました。流暢に答えることはできず、残念な思いでしたが、これだけ日本が愛されているということが実感でき、非常に誇りに思いました。日本という国を再認識し、今後の国際交流に役立てていきたいと思っています。



## 七尾・モントレイの最高のフレンドシップに感謝！ そして両市の未来に乾杯！

七尾市地域づくり支援課 岡島 佳子

今回、姉妹都市提携30周年記念交流事業に事務局として携わることができたことに、どこか運命的なものを感じております。平成4年（1992年）に七尾市役所へ入庁し、最初の配属先は商工観光課付け（株）香島津、七尾を誇る「能登食祭市場」でした。同施設は、私の入職前年にモントレイのフィッシャーマンズワーフを参考に建設されたものであり、当時から両市のつながりを身近に感じておりました。

私が初めてモントレイを訪れたのは2000年、今からちょうど25年前のことです。七尾青年会議所（以下、JC）のオブザーバー会員として活動に加わり、13th Junior Wings Program において七尾鹿島の中学生の引率者の一員として渡米いたしました。中学生交流を通じて感じた人々の温かさはもちろん、モントレイの街そのものが醸し出す雰囲気魅了されたことを今も鮮明に思い出します。その際には、Tim芦田先生に多大なるご支援をいただきました。能登食祭市場の成り立ち、JCやJunior Wings Program、そしてTim先生のご功労を思い起こしながら、今回の訪問に事務局として参加できたことに心より御礼申し上げます。

今回の訪問で特に印象に残ったことは以下の通りです。

- ・森山団長をはじめ、木下議員、野竹様、魚岸様、森山典子様、そして「みなとヨイサ」の踊りの練習にご参加いただいた方々など、団員皆様のご協力により、NANAO DAYを通じて両市の文化交流が実現したこと。
- ・モントレイ友好協会会長Dana氏をはじめ、調整・企画・通訳にご尽力くださったモントレイの皆様のホスピタリティと温かな心遣い。
- ・9月26日の市内研修で訪れた歴史博物館にて、10年前にJunior Wings Programで七尾を訪れたアレクサさんと再会し、施設のガイドをしていただいたこと。（Junior Wingsの担当Dana氏に紹介していただきました！）
- ・両市の交流に尽力された元モントレイ市長ダン・アルバート氏に対し七尾市長から感謝状が贈られ、さらにモントレイ市長から小田禎彦氏へ感謝状が贈られたこと。

以上を通じ、これまで七尾とモントレイの間に築かれてきた歴史と強い絆を改めて実感いたしました。両市の交流を紡いでこられたすべての方々に深く敬意を表しますとともに、青少年交流事業の再開が実現するよう、微力ながら先輩方の足跡を次世代へと繋いでいきたいと願っております。

今回の交流事業に事務局として関わらせていただき、モントレイ・七尾両市の関係者の皆様や親善団団員の皆様にお会いできたことは、私にとってかけがえのない財産です。心より感謝申し上げ、ここに私の報告とさせていただきます。





## 編集後記

今回のモントレイ訪問に際し、現地の皆様の人柄ややさしさに触れ、胸が熱くなるひとときを過ごしました。団長の森山様をはじめ、団員の皆様には渡航前の手続きやNANAO DAYに向けた準備など、多くのご尽力をいただきました。事務局として十分に役割を果たせたか心許ない思いもありますが、皆様とともに歩みを重ね、一つの経験を築き上げられたことは、私にとって忘れ得ぬ宝となりました。

また、長きにわたり諸先輩方が紡いでこられた七尾とモントレイとの交流の歴史に触れ、改めて両市を結ぶその絆の重みと尊さを感じました。そのような中に自らも身を置けたことは、心に深く刻まれております。これまで関わってこられた方々への敬意とともに、この訪問を通じて得た学びと経験を、今後の交流のさらなる発展へとつなげていきたいと願い、本稿をもって編集後記とさせていただきます。ありがとうございました。

七尾市親善団 事務局 岡島 佳子

### 姉妹都市提携30周年 親善団報告書

2025年11月発行

発行 七尾市・モントレイ市姉妹都市提携30周年記念交流事業実行委員会  
石川県七尾市袖ヶ江町イ部 25 番地  
(七尾市企画振興部地域づくり支援課内)  
TEL 0767 - 53 - 8633

印刷 石川印刷株式会社  
石川県七尾市本府中町ヲ部 8  
TEL 0767 - 53 - 2545

